

A Study of the *Peanuts*: How the Cartoon Appeals to the Readers

土井彩加

チャーリーブラウンは自分に自信が持てず、限りなくマイナス思考で自己評価の低い少年だ。飼い犬にさえ主人だとみなされていない。友達からはバカにされ、散々な扱いを受けている。自己評価の低いチャーリーブラウンは他人がいつも自分の悪口を言っているような気がしてならない。本当は長所もあるのに自分は短所しかないだめな人間だと思い込んでしまっている。しかし実際、彼は周りから大変愛されている。野球チームの監督兼ピッチャーも任されている。その理由は彼の長所にある。彼をバカにする友人にも優しく接し、決して見返してやろうなどとは思わない。読者は彼の優しさを感じる同時に、自分の中の意地悪な心を戒められるだろう。チャーリーブラウンの常にひたむきで決してめげない姿は、実際にアルコール中毒患者をも助けたこともある。

ルーシーはチャーリーブラウンとは正反対の性格の持ち主だ。自信過剰で傲慢で、自分の思い通りにことが進まないとすぐに気を悪くする。いつもいばり散らして、チャーリーブラウンはたびたび彼女の恰好の餌食になっている。しかし彼女の深層心理には、実は劣等感や無力感がある。自分に自信がないからこそ、他人を批評して安心を得る。褒められても素直に受け入れることができない。そんな彼女も片思いの相手の前では少々女性らしくなる。どんなにきつい言葉で拒絶されても、あきらめることなく繰り返しアタックする姿は実に彼女らしい。だが、弟に対して姉らしさは見せない。弟に両親の愛情が傾いてしまうことを恐れ、意地悪することにより不安を解消している。どうしようもない感情を間違った方法で解消しようとする行動は読者も共感するだろう。我々が自分に自信をなくしたとき、Lucy はどんな人もコンプレックスや不安を隠しもっていると励ましてくれる。

The Peanuts は今や単なる四コマ漫画ではなく、人生のガイドブックといっても過言ではない。心理学用語も生まれ、実際に精神学の治療にもこの漫画が用いられている。キャラクターも大変人気があり、世界各国で商品化されている。描かれているのは子供の世界だが、私達が住む実際の大人の世界と共通するものは多々ある。PEANUTSからはほっとする癒しだけでなく、多種多様な人間模様、社会的問題、道徳など人生について気づかされることがある。